

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ぼぶら棟)

事業所番号	0670400936		
法人名	株式会社菊地組		
事業所名	グループホームやまぼうし		
所在地	山形県米沢市直江町1番5号		
自己評価作成日	平成 29年 12月 20日	開設年月日	平成 16年 8月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは米沢市の西側に位置し、目の前には公園・コミュニティセンター・小学校が位置しており、休日には子供達や家族ずれで賑わいます。公園には時間を見つけては散歩に出かけ地域の方と交流を持ちたり、小学校、幼稚園の運動会があれば、見学しながら声援を送ってきます。天気の良い日には、馴染みの場所にドライブに出かけ、会話に花が咲いています。又年に1回か2回、ご家族の方と、外食できる機会を設けている。ご利用者様の心身の老化が進む中、ご家族様の意向を伺いながら、ご利用者様が毎日笑顔で穏やかに過ごせるよう心掛けて支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 1月 23日	評価結果決定日	平成 30年 2月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日生活の中で利用者の持てる力を発揮して掃除や食事作りなどを職員と一緒にやり、今出来ないことでもやってみようとする意欲を引き出し自立に繋がる支援を行っています。天気の良い日は近接公園への散歩やドライブに出かけ気分転換を図り、中・高校生やボランティアの来訪では感謝し笑い楽しんでます。職員一人ひとりがケアのレベルアップに努め、認知症の理解を深めながらホーム理念と今年目標「やさしい笑顔とまごころと芳情の心でしあわせを」を胸に刻み、利用者の思いを受け止め生きがいを持ち穏やかに暮らしていけるよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を管理者と職員が共有し実践につなげるよう努めている	利用者一人ひとりが違う人生を歩み、違う思いを持っていることを常に念頭に置きやさしい心でまごころこめて、その人に合った暮らしができるよう職員全員で支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりが持てるよう近隣の小学生やボランティアの受け入れを行っている。又地域の祭りや運動会を見学したり地域の一員としての交流を図っている	公園で遊ぶ子供達へ声をかけ、地域祭りや運動会に出かけて元気をもらっている。中・高校生の就業・介護体験での働きやボランティアによる歌や踊りでは感謝し、笑い、楽しみ、利用者の生きがいに繋がっている	地域とのつきあいを更に深めるために事業所から地域へのアプローチを積極的に行うことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に事業所周辺のゴミ拾いや掃除をしながら、地域の人々の理解や貢献に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の運営について報告し、意見等を発言してもらい、その意見等を職員会議で報告し、日頃のサービスの向上に活かしている	法人3事業所合同で開催し利用者状況やヒヤリ・ハット、活動等の報告を行い、取組みについて意見をもらっている。地域交流ではコミュニティセンターの活用などの意見もあり課題解消に向け取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連携をとり、事業所のケアサービスの状況や、事故などが起きた場合も早急に報告、相談し良い協力関係が築けるようにしている	運営推進会議で事業所取組みについて理解を得て適切な意見や助言をもらいながら、事故報告や生活保護の対応など相談して連携を図っている。介護相談員訪問での気づきは職員間で話し合い支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	全体会議で身体拘束の学習会を通して、身体拘束をしていけないと職員は理解している。ベットのレイアウト変更や、外に出ようとする方がいれば一緒に散歩をしたり、個人個人に合わせた対応で身体拘束をしないケアをしている。夜間は防犯上施錠はしている	スタッフ会議の中で「身体拘束」について研修を行い職員全員で拘束しないケアを実践している。離脱や徘徊・不穏な行動が見られるときは所在確認をしながら見守り、また一緒に外に出て気持ちを落ち着かせている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は虐待防止についての研修会に参加し、全職員にたいして伝達を行っている。全職員は虐待は絶対にしてはいけない。という共通認識を持ち検討事項があればケース会議で意見交換しケアに活かしている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行っている。又必要性がある利用者には活用できるよう支援をしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解約、改定の際は利用者・家族等に不安や疑問点を聞き、丁寧に説明をし納得いただいた上で契約又は解約をしている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議で利用者、家族等の意見や要望を発言していただいている。又、意見箱の設置も行い、意見や要望は、職員会議で報告し運営に反映できるようにしている	毎月担当者が手書きで「家族様への手紙」を送り利用者の暮らしの様子を知らせている。家族等と良好な関係を築きながら面会や電話時に話しやすい雰囲気作りをして、出された意見や要望は記録して検討し改善に繋げている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で、職員の運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。その意見、提案は運営に反映できるようにしている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がスキルアップして働けるように職場環境の整備に努めている。評価については明確な規定について行っている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山形県主催の研修会や、医療介護連携の研修会などに勤務調整を行いながら、各職員に応じた研修を受けやすいようにしている	毎月スタッフ会議の中で職員が輪番で講師となり「認知症の心理的理解」「緊急時対応」などテーマを決め勉強会を開いている。医療介護連携研修会など外部の研修にも参加して伝達し全体のレベルアップに繋げている。新人には職員が指導し自身もスキル向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修の受講時、他事業所の職員との情報交換を行い交流を図っている。又研修内容については会議にて伝達し質の向上につなげている	同業者と交流する機会は少なくなったが、研修会時に他事業所と話し合い、また懇意の職員と交流の中で情報交換している。交換研修は次年度に向け検討している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前のカンファレンスにおいて本人・家族の思い等を聞き、職員間で共有し安心して新しい環境に馴染めるように勤めている。入所後はコミュニケーションをとりながら要望等を聞き、安心してすごせるよう信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の方から、困っていることや要望などに耳を傾けながら、良い関係づくりができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等が今一番必要としている支援は何かを見極め、サービス利用の対応に努めている。必要時は他のサービスの利用も一緒に検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬しお手伝いさせていただいている。本人と一緒に日常の作業等をする事で、共に支えあう関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や毎月の近況報告の手紙で利用者の様子や健康面について伝えている。行事等で参加された場合は一緒に過ごせるようにセッティングして良い関係が保てるようにしている		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の方の面会は自由に受け入れている。又馴染みの場所へも出かけられるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席のテーブルは皆さんの顔が見えるようにセッティングしており、利用者同士の会話が弾んでいる。又、職員が間に入ることで耳が遠い方でも会話できるように、架け橋となり支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族と職員が良好な関係づくりができるように、関わりを大切にしている。退所後も必要に応じて対応できるよう心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や訴えから希望を聞きだし、把握できるよう努めている。困難な場合はご家族の方から聞いたたりして、職員間で共有している	人居時に本人・家族等から聞き取った思いや暮らし方、意向をもとに日々の生活の中でその変化や本音を聞き取っている。ケア記録等に記録し、ケース会議で担当者が報告して全員で共有し本人が望む暮らしが出来るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集、又は本人との日常の会話の中から情報の収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換と、月1度のケア会議において、利用者1人1人の行動、心身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当、職員、ケアマネ、家族間で情報交換しながら、本人が望む生活が送れるように努めている。又、月1回のケア会議で現状把握を行い、3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月毎の見直しを行い現状に合わせた介護計画を作成している。状態変化あれば都度対応している	本人・家族等の思いや意向、現状で出来ること出来ないことなどを基に担当者が中心となり職員全員で話し合っている。本人が持っている力を如何に引き出し持続できるかを大切に生かしていもち穏やかに生活出来るよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特変等個人録に記入し、職員間で情報の共有をはかり常日頃のケアに生かしている。状態の変化があれば計画の見直しをしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや書店に出向いて買い物や人と触れ合う機会を設けている。近くの公園に出向き散歩に来ている方との交流を図ったり、小学校の運動会の見学等、生き甲斐のある生活が送れるように支援している			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はできるだけ家族にお願いしているが場合によっては職員が付き添う場合もあり、情報は付き添ったり、情報提供書の活用で医療との連携を図っている	従来のかかりつけ医を継続している方は家族等の付き添いで受診し、体調に変化があった場合には情報提供や管理者が同席して対応している。残り半数の方は協力医の定期的な往診を受け、どちらも結果等を共有して健康管理している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の情報や気づきを看護師に相談し、対応や処置をして貰っている。又、Drへの情報提供で対応方法等の確認を行っている			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族からの情報やソーシャルワーカーからの情報収集し、早期退院や退院後の受け入れがスムーズにできるように対応している。又、状況の変化があった場合等は、主治医に報告し指示を仰ぎ、都度状態報告している			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の治療については、主治医、家族と話し合いの場を持ち、職員全員が、本人にとって過ごしやすい対応や環境を共有して支援している	利用前に事業所では医療行為が出来ない旨を伝えており、重度化した場合や100歳を超えている方などは段階的に主治医、家族等、事業所で話し合いを重ね、今後の方針を共有して出来る限りの体制で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で研修を行ったり、外部の研修に参加して、応急手当の方法やAEDの使用方法について研修を受ける機会を設けている		/	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜の想定で避難訓練を行っている。又職員の緊急連絡網を作成し、行政、医療機関、近隣との連携もスムーズにできるようにしている		年1回は隣接の小規模多機能型事業所と高齢者住宅合同で避難訓練を実施している。グループホーム独自では会議に合わせて行い、2棟の連携と小規模多機能職員の協力を確認している。また備蓄は法人全体で確保している。	避難訓練を会議の中に組み込んで実施しているが、夜間想定や召集訓練などあらゆる災害に備えて繰り返し行われることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で接遇についての学習会を行っていると共に、職員間で声掛けしあいながら、日々学びの場を設けている。		認知症の理解や接遇の勉強会を通して尊厳や人格の尊重について学び、一人ひとりの性格やこだわり、気づきや変化など2棟の職員が連携して把握・共有し、その方に合わせた統一したケアを心がけている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴しながら、希望を表わしたり、自己決定できるような環境作りを心がけている		/	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を強制するのではなく、本人の動きや気持ちに合わせた対応を優先にしたケアができるよう支援している		/	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が身につけたい物を伺いながら支援している。又、お化粧の習慣のある方には、場所や物品などのセッティングの援助もおこなっている		/	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人のアセスメントからできることを見出し、その方の力を生かせるように関わっている。食事の盛り付け、食器拭きなど、職員と一緒にしている		隣接の法人厨房で調理された食事を利用者に盛り付けを手伝ってもらい、お粥やきざみなど形態も考慮して提供している。定期的にパン屋の訪問があり自分で選ぶ楽しさや皆でおやつを手作りするなど食への関心を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のない方には好みの物を多くしたり、お手伝いしたりしている。又、アイスやゼリー等の提供や、トロミを使用したりご本人に合わせた対応で水分の確保につなげている。お茶の時間以外にも随時提供している			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助で口腔ケアを行い、義歯の方には、咀嚼のさいの噛みあわせの不具合がないかの確認も行っている。舌苔のある方には舌ブラシを使用するなど個人の状態に合わせた対応を行っている			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子の方でも、できないところだけの援助を行い、声掛けや見守りで、できるだけ失敗して自尊心が傷つかないような対応を行っている。意思表示できない方には、排泄パターンやサインを把握し支援している	自立の方もいるが、ほとんどの方はチェック表を活用して時間や訴えでトイレでの排泄を支援している。退院後寝たきりだった方が歩行器で歩ける様になり紙パンツから布パンツへとレベルアップした例もあり、リハビリにも力を入れている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取っていただいたり、ホーム内の歩行運動の声掛け、食物繊維の提供、時には下剤を使用する事で排便のコントロールができるように促している			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の状態に合わせた入浴時間のセッティングや、日にちを変えたりして気持ちよく入浴できるように対応している	機械を新たに導入して車椅子の方も入り易くなったが、入浴を好まない方が多く同性介助や対応者を替えて工夫しながら支援している。乾燥肌の方にはボディローションを入れた上がり湯を掛けて保湿し、転倒や身体状況の変化などに留意して介助している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理を常時行い、食後に休息の習慣のある方には休めるようにしている。又、就寝時はパジャマ交換の声掛けし、更衣習慣のない方には寝やすい衣類等で夜間はゆっくり休めるように援助している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2人で用量や内容の確認を行いながら仕分けをしている。服薬時は3重チェックで誤薬のないように支援している。状態の変化があれば都度、主治医に相談し、状態にあった薬が内服できるように支援している			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に合わせて、会話、塗り絵、歌会等おこなっている。又、趣味の読書ができるように、気分転換を図りながら、本の購入に外出支援をおこなっている。能力に合わせて、お盆拭きや盛り付けを行ってもらい、色合い等利用者間で話ができるように支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の移り変わりが見られるように、ドライブや公園に散歩をしたりしている。又、自宅に外出してリフレッシュできるように、家族の協力を得たり、身近にあるスーパーに買い物に出かけて、地域の方と交流が図れるように支援している	日頃は近くの公園に車椅子の方も散歩に出かけ子供達や地域住民との交流を楽しんでいる。年1回のバスハイキングでは家族も一緒に祭り見物や食事会をして安心した笑顔の一日を過ごし、天気の良い日は2棟合同でミニドライブに出かけリフレッシュしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人ごとの所持金があり、1週間に1回は、パン購入できる日があり、自分の好きなパンを選ぶ楽しみと金銭のやり取りができる機会をもうけている。又読書が好きな方には、外出し本の購入と支払いの援助の機会を設けている			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を自由にかかけられるよう配慮している。又、年賀状や手紙の返信の支援も行っている			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、椅子の配置は利用者同士が、話しやすいようにセットしている。玄関脇の日あたりの良い場所には、家族と会話したり、個人がゆっくり過ごせるように、テーブル・椅子をセットしている。テレビの音量や温度・湿度の調整をし、心地よく過ごせるように配慮している	ホールは行事に合わせた演出で季節を感じてもらい、テーブルや椅子、歩行器等動線を確保した配置で安全な環境を整えている。日中はホールで盛り付けの手伝いやぬり絵をしたりして思い思いに過ごし、日当たりの良い廊下隅のテーブルセットは外の景色を見ながらほっこりできる人気スポットになっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが見やすいようなテーブル配置や、入居者間の良い関係作りができるようにソファの位置も工夫している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごし易いようにベッドや箆箆などのレイアウトを行い、居室には家族や本人の物を置いて安心して過ごせるようにしている。他に必要な物があれば家族・本人と相談して設置している	入居時に仏壇やドレッサー、桐ダンスなど馴染みの物を持参してもらい、使い勝手よくレイアウトして自宅と変わりなく過ごしている。夜間は全居室が見渡せる所で職員が待機し、こまめな巡視で安心安眠に繋げている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は個々のアセスメントを行い、できる事・出来ないことを把握し、できる事は最大限に生かせるような取り組みをしている		